

大阪国際空港航空機事故対策 総合訓練に参加しました

令和5年11月2日(木)、大阪国際空港で航空機事故が発生した場合に備え、大阪国際空港緊急計画の検証と、関係機関との緊密な連携と協力により、迅速かつ適切な消火救難・災害医療活動を実施することを目的に行われた訓練に、当院から救護班が参加しました。



【看護師】 大阪国際空港航空機事故対策総合訓練には多数の関係機関が参加していたため、初めて見る車両もあり、順番に赤色回転灯を点灯させ入場する車両を見て緊張感を感じた。

活動場所は黄色の救護所で、高槻赤十字病院の救護班と合同で活動を行った。救護班間でコミュニケーションは図れ、傷病者に対し限られた資源で医師・看護師・主事と連携し傷病者に対し手当を実施することができた。

しかし、搬送調整に時間がかかり救護所で待機時間が長くなる傷病者が複数名いた。救護所でも医師・看護師が連携し観察を行い、適宜トリアージを実施していたが、傷病者より「本当はこんな状態で待っていたら泣き叫んでいますよね」という言葉を聞き、傷病者へのこころのケアに配慮した行動を振り返る機会となり、改めてこころのケアの重要性と自己の役割を再認識した。

これからも、救護班看護師としての役割を果たし、傷病者のニーズに的確に対応できるよう、知識と技術を磨いていきたいと感じた。

【看護師】 今回の訓練では、中等症患者を担当するエリアで活動した。黄色にトリアージされた患者を的確に観察、バイタルサインチェック、搬送の優先順位の判断をチーム内で実践できた。また、担当する場だけでなく、消防など多職種とも密に連携しながら活動することができた。有事の際は、自身の役割や指揮命令系統を理解し、迅速な判断、チーム連携を強化し実践できるように心とからだの準備をしていきたい。